

●東京石油

30日の東京原油は反発。原油期先12月限は前日比30円高の4万1990円で取引を終えた。ニューヨーク原油(WTI)相場の上伸を受けた買い戻しに、堅調に始まった。ただ、その後は為替の円高・ドル安が圧迫要因になり、上げ幅を縮小した。製品はまちまち。原油高に追隨して高寄りしたものの、円高で手じまい売りが誘われ、値を消した。終値は、ガソリン期先2月限は前日比30円安の5万750円、灯油期先2月限は同40円安の5万3540円。

●東京貴金属

30日の東京金は続落。前日同様、引けにかけて下げ幅を縮小へ。15時半時現在の金期先6月限は前日比32円安の3259円、白金期先6月限は同25円安の4350円。NY金の戻りは前日の時間外取引で織り込み済み。東京は急激な円高が直撃し、下げ幅を拡大することとなった。特に昼過ぎの円高では3250円を割り込む場面も一時的にみせた。一方でアジア株の急落を踏まえてドルベースの金はリスクヘッジで買われたように1170ドル台まで水準を切り上げ、13時半過ぎには前日の高値である1172ドルを上抜ける動きもみせた。そのため、東京金は3259円まで一気に戻したが、NY金は1172ドルが壁になったようで、早々マイナス圏に沈む動きをみせていた。朝方堅調だった白金は金安や円高を嫌気して売り込まれ、9時半過ぎには4350円割れを果たした。その後はマイナス圏での小康状態が続き、円高や株価の急落には反応しなかった。さて、金は15時前後の円安進行から3260円台に水準を切り上げたが、ドルベースの動きはこう着へ、概ね円相場に沿った展開だったといえる。白金は下げ幅を縮小して引けた。今晚のNY金は月末要因もあり、ポジション調整の動きが想定される。カギはNY証券取引所の金ETFの動向である。7月にはスタートから減少するつまずきをみせ、結果的にその後の下降トレンドのキッカケになったといえる。その意味で、まずは8月初旬のETFの動向に注目したい。7月下旬にインドの買い付け期待が話題になっていたが、市場のマインドを推し測るうえで、ETFが重要といえる。白金はPMI次第。

●東京穀物

30日の東京トウモロコシは期近を除き反落。為替の円高・ドル安を受けた手じまい売りに、おおむね小安く寄り付いた。その後は、9月当限が商社機関店の小口買いに引き締まる一方、2番限以降は円の戻りを材料に水準を切り下げた。終値は、期先7月限は前日比90円安の2万6400円。一般大豆はまちまち。総じて小じつかりに寄り付いた後は、決め手材料不足から玉次第でもみ合った。終値は、一般大豆期先6月限は前日比30円安の4万1380円

<この情報は、投資勧誘を目的として作成されたものではなく、あくまで情報提供を目的としたものであります。情報に関しましては、万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身で行っていただきますよう、お願い致します。>